

シリーズ8

「流れ」でおさえよう！

室町時代のことを生徒に聞くと、「ややこしい時代」「複雑な時代」という声意外に多いので、びっくりします。戦国時代なら「好き」「面白い」というプラスイメージの反応が返ってくるのですが・・・。

確かに、室町時代は「ややこしい」かもしれませんね。鎌倉幕府が滅びた後に、後醍醐天皇の「建武の新政」が始まりますが、長くは続かずに南北朝の動乱に突入します。足利義満が強力な権限を握って幕府の力が強くなったかと思うと、6代将軍足利義教が暗殺され、8代将軍足利義政の後継者をめぐって応仁の乱が起きて、戦国時代の幕が切って落とされます。これ以後、将軍様と言っても名ばかりで、京都の屋敷の畳の上で死ねなかった将軍も多くいます。

また、15世紀は「一揆の時代」とも言われ、様々な一揆が起きますね。江戸時代なら「百姓一揆」と覚えたらすみますが、室町時代は「一向一揆」「法華一揆」のような宗教による一揆もあれば、「土一揆」「国一揆」「徳政一揆」のように分類するものもあります。

ですから、240年ほどの室町時代を「チャンク（かたまり）」で掴んでおかないと、突っ込んだ質問には答えることが難しくなります。

室町時代は「南北朝時代」→「義満・義教（の守護大名抑圧）時代」→（応仁の乱・続発する一揆）→「戦国時代」のように、大まかにチャンクで理解し、覚えていきましょうね。

第5回 室町時代

<南北朝動乱期の戦いの変遷>

中先代の乱 → 竹の下の戦い → 湊川の戦い → 南北朝の分立
1335年 1335年 1336年5月 1336年12月

→ 石津の戦い → 藤島の戦い → 四條畷の戦い
1338年 1338年 1348年

建武の新政が混乱をきたしている中、北条高時の遺児**時行**が反乱を起こし、一時鎌倉を占領します（**中先代の乱**）。足利尊氏はこれを討ちますが、後醍醐天皇の意に背いて出兵したため、新政権に反旗を翻すこととなります。新田義貞が箱根まで攻め上ってきますが、尊氏軍が勝利します。尊氏軍は京都まで攻め上りますが、敗北したため、九州で立て直しを図り、湊川で**楠木正成**らと戦い、正成を破ります。

尊氏は1338年に征夷大將軍に任ぜられて室町幕府が誕生しますが、京都に軟禁されていた後醍醐天皇は吉野に脱出して、ここに**南北朝時代**が始まります。しかし、石津で北畠顕家、藤島で新田義貞、四條畷で楠木正行が敗死します。ついには、後醍醐天皇も亡くなり南朝の勢力が弱まりますが、尊氏の執事**高師直**と尊氏の弟**直義**との対立から、幕府方の内乱ともいえるべき**観応の擾乱**が起こります。その後も抗争は続いたため、南北朝時代は長く続くこととなります。

ところで、**尊氏を征夷大將軍に任じた天皇は誰でしたっけ？**

そう、**光明天皇**でしたね。

< 守護の権限の拡大 → 守護領国制の成立 >

大犯三箇条 → **刈田狼藉取締権** → **使節遵行権** → **半済令** → **守護請**
1185年 1310年~46年確立 1346年~ 1352年~ 14世紀末~

守護の権限は鎌倉時代当初は**大犯三箇条（京都大番役の催促、謀反人・殺害人の逮捕）**しかありませんでしたが、その後徐々に増えていきます。鎌倉末期からは、田畑をめぐる紛争が起こった際に、自分の所有権を主張して稲を一方的に刈り取る実力行使を取りしめる**刈田狼藉取締権**が守護に与えられました。また、南北朝期には、幕府の判決を強制執行する権限である**使節遵行権**が守護に与えられました。

さらに、1352年には、軍費調達のために一国内の荘園や公領の年貢の半分を徴収できる**半済令**を出しました。元々は1年限りで、三カ国に限定されていましたが、永続的に実施されるようになりました。ところで、「**三カ国**」とはどこの国でしょうか？

三カ国とは・・・**近江・美濃・尾張** でしたね。

また、荘園や公領の領主が年貢の徴収を守護に請け負わせる**守護請**を獲得します。守護はこうして実力をつけ、いわゆる**守護大名**となり、將軍の力を超えるような力を持つ守護大名も登場することになります。

<足利義満・義教による守護大名の統制策>

土岐康行の乱	→	明德の乱	→	応永の乱	→	永享の乱	→	嘉吉の変
1390年		1391年		1399年		1438~1439年		1441年
足利義満		足利義満		足利義満		足利義教		足利義教

室町幕府は足利将軍と守護大名の連合政権であり、将軍の力は大きくありませんでした。しかし、3代足利義満や6代足利義教は守護大名を抑えて、将軍権力を大きくしようとしました。

義満は美濃・尾張・伊勢の守護である土岐康行を破り、明德の乱では六分の一衆と呼ばれた山名氏清を討ち、応永の乱では長門など六カ国の守護である大内義弘を破りました。

一方、義教は永享の乱で鎌倉公方足利持氏を討ちますが、嘉吉の変では播磨の守護赤松満祐に暗殺されてしまいます。

<日明貿易=勘合貿易の変遷>

勘合貿易開始	→	貿易中止	→	貿易再開	→	大内・細川氏などによる貿易
1404年		1411年		1432年		応仁の乱以降
		→	大内氏による貿易独占	→	貿易断絶	
		1523年		1551年		

1401年に3代将軍足利義満は僧祖阿、博多商人肥富を明に派遣し、日明貿易の開始が決まります。この貿易は倭寇と区別するために勘合を使用することや、日本国王の義満が明の皇帝に朝貢するという形式を取らざるを得ませんでした。

ただ、注意しておかなければならないのは、将軍は義満ではなかったことです。では、日明貿易が開始されたときの将軍は誰ですか？

このときの将軍は4代将軍足利義持でした。このあたりは江戸時代初期の徳川家康と徳川秀忠の関係と似ていますね。武家諸法度（元和令）を起草させたのは家康ですが、この時の将軍は秀忠でした。

さて、義満が亡くなると、義持は朝貢形式が屈辱的であるという理由で貿易を中止します。しかし、6代将軍足利義教は利益の大きさに注目して貿易を再開します（嘉吉の変で暗殺されます）。ただ、応仁の乱以降は貿易の担い手は幕府から有力な諸大名に移ってしまいます。

なかでも、博多商人と組んだ大内氏ならびに堺商人と組んだ細川氏とが貿易を担っていきます。その後、1523年寧波の乱で勝利した大内氏が貿易を独占するようになりますが、1551年に大内義隆が殺され大内氏が滅亡すると日明貿易は断絶してしまいます。

さて、守護大名の大内義隆を殺した武将は誰ですか？

大内義隆の重臣陶晴賢でしたね。この陶晴賢を破り、中国地方の大大名になっていくのが毛利元就でしたよ。

<15世紀は「一揆の世」>

正長の徳政一揆 → 播磨の土一揆 → 嘉吉の徳政一揆

1428年

1429年

1441年

→ 山城の国一揆 → 加賀の一向一揆

1485~1493年

1488~1580年

近江の馬借の蜂起を契機に、畿内一帯の百姓が酒屋・土倉・寺院を破却し徳政を要求します。

ちなみに、「日本開闢以来、土民蜂起是れ初めなり」で有名な「正長の徳政一揆」を伝える史料は何でしょうか？

答えは、『大乘院日記目録』でした。

ところで、各地で実力による債務破棄を行う（私徳政）例が見られますが、「正長元年ヨリサキ者、カンヘ四カンカウニライメアルヘカラス」という文字が刻まれている地蔵尊を彫った巨石の碑文を何とといいますか？

答えは、「柳生の徳政碑文」でしたね。

翌年には守護赤松氏の争いで百姓たちが守護の退却を求めますが、赤松満祐に鎮圧されます。6代将軍足利義教が殺された嘉吉の変の直後に、京都近郊の百姓が「代始めの徳政」を要求して蜂起しました。嘉吉の徳政一揆で、幕府は初めて徳政令を出すことになりました。

山城の国一揆では、南山城の国人・百姓らが畠山政長・義就両軍に撤退するよう迫り、その結果、両軍は撤退し、8年間の自治支配が続くことになりました。加賀の一向一揆では一向宗門徒の国人・地侍が百姓を動員し、守護の富樫政親を倒し、その後100年近くの間一国を支配していきました。

ところで、「今日山城国人集会す」という史料が掲載されている出典を何とといいますか？

答えは、『大乘院寺社雑事記』でしたね。

また、加賀では一向一揆が約100年続くほど浄土真宗本願寺派の力が大きかったのですが、応仁の乱の頃に、北陸地方に布教をしていった僧侶は誰ですか？

答えは、本願寺の蓮如（兼寿）です。